## ウイッテ伯備忘錄ノ一節（佛譯ニ依ル）

（中一八九六年ノ露國ノ極東政策ノ結末ニ關スル經緯ヲ說明セル）

李鴻章トノ數次ノ會合ニ於テ、余ハ露國カ最近支那ニ對シテ主トシタル貢獻ノ尠カラサルコトヲ力說シ、又支那ノ領土保全ノ主義ニ賛同ハ將來モ其ノ主義ニ於テモ固守スヘシトノ意向ヲ示シ之カ爲メニハ露國ハ戰爭ニ際シ其ノ軍隊ヲ派シテ支那ヲ援助シ得ル地位ニ置カナケレハナラヌ、而シテ露國軍隊ハ歐露ニ集中シテ居ルカラ、歐露及浦鹽斯德ヲ鐵道ニ依リテ支那ニ連絡スルニアラサレハ右支那援助ハ不可能テアルト說キ、尚彼ノ注意ヲ惹クヤウメニ余ハ露國カ日清戰爭ノ際浦鹽斯德迂屯



兵ヲ派遣シタルトコロカ鐵道カナイ爲メ行軍涉ラス、其ノ吉林ニ到着セルトキハ戰爭ハ既ニ終了シテ居ツタ事實ヲ說明シタ。余ハ更ニ清帝國ノ保全ヲ期スルヤウメニハ、蒙古及ヒ滿洲ノ南部ヲ橫斷シ道路浦鹽斯德ニ直通スル鐵道敷設ノ必要ナルコトヲ論シ、且ツ該鐵道ハ露領及ヒ沿線ノ支那領土ノ物產ヲ增加スヘク、日本モ亦最近西歐文明ヲ輸入シタルヲ以テ、西歐ト日本ヲ連結スヘキ此ノ鐵道ヲ建設歡迎スルテアロウト述ヘタ。

李鴻章ハ自然種々ノ反對ヲ持チ出シタカ、余ノ數次ノ說明ノ結果、若シ露帝ニシテ之ヲ希望セラルルコト確カナラハ余ノ提議ヲ採用スルモ可ナリト答ヘタ。茲ニ於テ余ハ帝ニ李鴻章ヲ引見セラレムコトヲ請ヒ、帝ハ之ヲ容レテ彼ヲ引見セラレタ。之ハ非公式ノ謁見テアツタ爲メ、新聞紙ニハ發表セラレナカツタ。此ノ支那政治家トノ會商ノ結果



REEL No. 1-0089
0098
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

露清祕密條約タルヘキ左ノ三ケ條ノ規定ヲ作ツタ。

一、清帝國ハ露西亞ニ對シ清國領土内ニ清國浦鹽斯德間ヲ直接ニ連結スヘキ鐵道ヲ敷設スルコトヲ許可ス、但シ該鐵道ノ運行ハ私設會社ノ手ニ委ネラルヘキモノトス。

李鴻章ハ該鐵道カ國庫ノ費用ヲ以テ建設サレ又ハ所有セラルヘシトノ余ノ提案ヲ斷乎トシテ拒絶シタ、此ノ故ニ吾人ハ東清鐵道會社ト稱スル一私會社ヲ設立セサルヲ得サルニ至ツタ。此ノ會社ハ全然政府ノ手ニ在ルケレトモ私立會社トシテ存續スルモノテアル、又同會社ハ大藏省ノ管轄ノ下ニ置カレタ。

二、清國ハ右鐵道ノ建設及使用ニ充ツル爲充分ナル一帶ノ土地ヲ讓渡スルコトヲ承諾ス。東清鐵道會社ハ右土地内ニ於テ警察權ヲ行使



シ、完全ニシテ且ツ障碍ナキ權限ヲ享有スルコトヲ許サル。清國ハ該鐵道ノ建設及ヒ運用ニ關シテハ何等ノ責任ヲ有セス。

三、露清兩國ハ日本カ支那若シクハ極東ニ於ケル露國領土ヲ攻擊スルトキハ、之ニ對シ相互ニ他ヲ防禦スルノ義務ヲ有ス。

余ハ會商ノ結果ヲ陛下ニ報告シタ、陛下ハ之ニ關シ余ニ外務大臣ト協議スルコトヲ命セラレタ、余ハロバノフ公ニ對シ露清祕密條約ノ條件ハ口頭ノ上ニテハ已ニ一致セルヲ以テ、餘ス所ハ之ヲ正式ノ文書トスルノミテアルコトヲ説明シタ。公ハ協約ノ條件ヲ聽取シテ筆ヲトリ條約文ヲ起草シタ。其ノ草案ハ巧妙ニ立案セラレタカラ余ハ何等ノ留保ナク之ニ贊成シタ。公ハ明日詳細ヲ陛下ニ報告シ、御裁可ヲ經タトキハ直チニ之ヲ余ニ通報スルト言ツタ。



REEL No. 1-0089
0099
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

其ノ條約ノ原文カ余ノ許ニ戻ツテ來タ時、余ハ意外ニモ日本ニ對スル露清同盟ニ關スル一項ニ重大ナル變更カ加ヘラレテアルコトヲ發見シタ。即チ「日本ニ依リ」トイフ語カ省略セラレ居ツタノテアル。此ノ變更サレテ居ル原文ニ依レハ單ニ日本ノミナラス他ノ強國カ締約國ノ一方ヲ攻擊シタル時ニ二國カ相互的防禦ノ義務アルコトヲ豫想スルモノテアル。余ハ全ク驚愕シタ。此ノ變更ハ最重要ナルモノテアル。數多ノ歐洲強國（其ノ中ニハ吾人ノ同盟國タル佛蘭西ヲモ含ム）及ヒ英國カ支那ニ於テ利害關係ヲ有ツテ居ル、而シテ我カ露國ヲシテ是等諸國ニ對シ支那保護ノ義務ヲ負ハシムルハ、彼等ヲシテ吾人ニ對立セシメ、絶間ナキ爭鬪ヲ挑發セムトスルモノテアル。





余ハ即刻皇帝ニ謁見シ、詳細ヲ縷述シタ。皇帝ハ之ニ必要ナル訂正ヲ加ヘムコトヲ**ロバノフ**公ニ要求セヨト命令サレタ。~~中ニハ~~極メテ微ニ亘ル。余ハ外務大臣**ロバノフ**公ヨリモ遙カニ年少ニシテ、且ツ公職ニ於テモ彼ノ下風ニアルカ故ニ、彼ノ爲セルコトヲ訂正スルコトハ、彼ノ感情ヲ害フモノテアル、コトヲ心配シ因テ皇帝ニ~~ロバノフ~~公ニ對スル余ノ此ノ感念ヲ述ヘ、帝親ラ公ニ此ノ事ヲ計ラレムコトヲ懇願シタ。帝ハ之ヲ容レラレタ。其後我々ハ間モナク皆帝ノ戴冠式ニ列スルタメ**モスコー**ニ向ケテ出發シタ。

**モスコー**ニ於テ余ハ最大ノ時間ト注意トヲ李鴻章ノ爲メニ費シタ、何トナレハ吾々ノ交渉ヲ滿足ナル結果ニ到達セシムル方メ、這~~ニハ~~露國ニトリ最重要ノコトテアルト思考ヘタカラテアル。露清同盟ハ二



REEL No. 1-0089
0100
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ツノ意義ヲ有ツテ居ル、即チ第一ハ黑龍江ノ北側ニ沿ヒ迂回スルコトナク一直線ニ浦鹽斯德ニ至ル大鐵道ノ建設、第二ハ隣國支那トノ堅牢ナル平和關係ノ設定テアル。帝ハ余ニ對シ外務大臣ニ話シタトコロ、外務大臣ハ條約ノ成文ヲ訂正スルコトヲ約束シタト確言セラレタ。帝ハ屢々之ヲ繰返サレタカラ、余ハ此ノ問題ニ付テハ些ノ疑念ヲ有タナカツタ。其後余ハ幾回トナク**ロバノフ**公ト會見シタケレトモ、此ノ問題ニ關シテハ兩人トモ言及シナカツタ。

此ト同時ニ余ハ李鴻章トノ會商ヲ繼續シ、清國政府ヲシテ露清銀行（當時既ニ活動セル）ニ對シ西比利亞線ノ東清線ノ部分ノ敷設權ヲ附與セシムルコトニ努力シタ。同時ニ余ハ右權利ヲ同銀行ヨリ露國政府ノ設立セムトスル東清鐵道會社ニ讓渡セシムル爲ノ同銀



行トノ契約ヲ準備シタ。

最後ニ我々ハ祕密條約調印ノ日ヲ定メタ。調印者ハ露國側ハ**ロバノフ**公ト余ニシテ、支那側ハ北京ヨリ直接ニ訓令ヲ受ケタル李鴻章テアツタ。外務大臣ノ室ニ於テ法律的及ヒ儀式的ノ方式ニヨツテ條約ニ調印スルコトニ一致シタ。定日、露國全權及ヒ其ノ隨員、李鴻章及ヒ其ノ隨員カ外務大臣ノ室ニ於テ相會シ、一ツノ卓ヲ圍ンテ着席シタ、**ロバノフ**公ハ開會ヲ宣シ、次テ露清兩國ニ於テ條約ノ成文ハ知悉サレ、其ノ詳細ハ既ニ兩國ノ書記官ニヨツテ周到ニ書キ寫サレタルヲ以テ讀マスシテ調印スルコトヲ得ル旨ヲ述ヘタ、彼ハ「然シ支那全權ニ於テ希望セラルルニ於テハ今一度本條約文書ヲ讀マルルコトハ至極結構テアル」ト附言シタ。（條約正本一通（條約文書



REEL No. 1-0089
0101
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ハ二通調印セラルル筈テアツタ）李鴻章ノ隨員ニ手交サレタ。余ハ他ノ正本ヲトリ誤謬ナキコトヲ豫期シナカラ之ヲ熟讀シタ。其ノ時余ハ露清同盟ニ關スル一條ニ至リテ愕然トシタ、陛下ノ證言ニモ係ラス支那トノ防禦同盟ニ關スル條項カ訂正サレ居ラサルヲ見テ愕然トシタ。該條項ハ何國ニテモアレ支那ヲ攻擊スル强國ニ對シテ清國ヲ保護スル義務カ露國ニ存スルコトヲ豫想シテ居ルノテアル。

余ハロバノフ公ニ近寄リ、彼ヲ一偶ニ引張ツテ、防禦同盟ニ關スル條項カ陛下ノ御希望ノ通リニ變更セラレ居ラサルコトヲ耳打チシタ、彼ハ頷ヲ叩イテ言ツタ、「オヤオヤ、私ハ全ク原案通ノ文句ヲ持入ス庫文ヲ變更スルコトヲ書記官ニ命スルコトヲ忘レテ居マシタ」。然シ彼ハ狼狽シナカツタ。彼ハ時計ヲ見タ、零時十五分テアツタ。彼ハ僕ヲ呼



フタメニ幾回トナク呼鈴ヲ鳴ラシ、ソシテ自分ヲ圍繞スル人達ニ振向ヒテ「既ニ正午ヲ過キマシタ、晝食シマセウ。條約調印ハ午後ニシマセウ」ト言ツタ。

我々ハ皆晝食ニ出タ。二人ノ書記官ハ殘ツテ皆ノ晝食中原文ヲ寫シテ之ニ必要ナ訂正ヲ加ヘタ。此ノ新シキ正本ハ靜カニ午前中ノ正本ト置キカヘラレタ。而シテ一方李鴻章他方ロバノフ公ト余トカ之ニ調印シタ。

此ノ協約ハ最モ重要ナルモノテアル。若シ露國カ之ヲ忠實ニ守ツタナラハ日本トノ戰爭ニヨル侮辱ヲ蒙ルコトモナク、極東ニ於ケル堅實ナル地位ヲ露國ニ與ヘタテアラウ。事件ノ經過ヲ卒直ニイフナラハ、此ノ協約ハ露國自ラ之ヲ破ツテ、現時極東ニ於ケルカ如キ局



REEL No. 1-0089
0102
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

面ヲ轉廻シタノテアルト言ハネハナラヌ。

條約ハ直クニ支那皇帝ト露國皇帝トニ批准サレタ、此ノ條約ハ露支關係ノ基礎ヲナシ延テハ露國ノ極東ニ於ケル政策ニ大ニ貢獻スヘキ筈ノモノテアツタ。

外務省

（巳號用紙）



REEL No. 1-0089

0103

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/